

豆句集



その一粒目  
2012年立冬号

## 目次

### \*俳句

とおい橋 西村 遼 …2

水の輪 梅津志保 …5

銀河は違ふ 井上雪子 …8

### \*メッセージ

はじめまして

西村 遼 …12

梅津志保 …13

井上雪子 …14

### \*俳句

秋の家 吉野裕之+浦崎真子 …15

### \*メッセージ

創刊のことば …16

## 豆句集

みつ  
まめ

とおい橋

西村 遼

プリメーロ・プラトの鯛とおい橋

無花果を銀器で割りぬふたつになる

相づちの間延びする処暑談合坂

旅行かばん開いたままで窓の月

わたしの名探すジョン・F・ケネディ空港

嘘つきで愛されていた青年忌

稲妻や部屋の影みな大いなる

滝という時間の前や栗饅頭

ゴスロリが吊り革つかむ夏の果て

大先輩カレーおごってすぐ帰る

まんが読みおれば落日都鳥  
片陰や手招きをするピクトグラム  
秋高くして校庭のかつて海  
市電降り八方秋や広島市  
鯖ずし一つ食う間に駅や瀬戸内の

## 水の輪 梅津志保

ひと夏の那須の山食む牛の群れ  
四方からジグソーパズルの白き雲  
露地に猫あふれ出て来る梅雨明けや  
ニュータウン白く交叉し夏の坂

夏の空磨き上げるや窓辺なり  
魚屋の文字踊るかな初秋刀魚  
駅員の白手袋や赤とんぼ  
登高や手の平にのる遠き街  
波を裂く船の先には鰯雲  
隣人の籠を覗きて梨をもぐ

真夜中の遠吠え呼んで台風か  
草深くそれぞれ生きて虫の秋  
夕暮れに水の輪広げとんぼの目  
少年の駆ける靴音秋祭り  
爪染まるゆるやかなりて秋の暮れ

銀河は違ふ

井上雪子

金色に鮎焼き上がり梅雨明ける

夏草や父になじまぬ布の靴

少年の挨拶短し大西日

扉開け SuperDRY は立ち飲みで

整備士の一礼深き晩夏かな

夏の果てしぶとき果実の染みであり

音暑し透きとほりゆく冬瓜の

台風の腕延びて来て転校生

秋雨やしばらく埃の匂ひ立つ

光透く葡萄を白磁の皿は受く

小さき野の空やカンナの咲き続く

秋澄めりゆつくり渡るかもめ橋

蝙蝠も遠出し秋の夕焼けと

秋天の観覧車かな君の旅

秋寂びの自販機こちらを見ぬふりす

初物の林檎にぐいと力あり

月はもう真顔で過ぎてみたりけり

秋霖のYシャツ幽かに発光す

秋の夜にぶらんこ漕ぐよパンプスで

夜は来てみづから光る芒です

少しだけ銀河は違ふ風の立つ

## はじめまして――

●西村 遼

俳句というこの短い詩形がどうして人に届くのかまだ分かりませんが、とにかく受け取ってしまいました。ですからこれは返信です。すでに世界から贈られていた無数の言葉に感謝をこめて。

●梅津志保

季節を感じようと集中する時間や俳句を創作する時間は、思いがけなく私になる時間を与えてくれました。この時間を日常生活の中で大切にし、格好をつけず正直な自分でいたいのです。皆さまに受け取っていただいた言葉の種の数々。小さな蕾をつける日が来ますように。そんなことを願っています。

●  
秋の家

吉野裕之+浦崎真子

原爆忌父が諦めたるパズル [H]

捨て切れぬ真夏の顔や秋暑し [M]

大切な話 九月の冷奴 [H]

ドアノブに届くかばちやと走り書き [M]

さういへば秋の麒麟を見たやうな [H]

甘党のほどほど酔へる月見豆 [M]

●井上雪子

老眼鏡をかけようか、望遠鏡で覗こうか、  
十七音という小さな場所に立って、見えない言葉を待つ間、  
はじめてここに居るといふ気がいつもします。  
さほどあまくはない日常にふんのめりながらも、  
世の中をよくすることをあきらめないDNAと呼ばれ、  
自由になりたがる言葉と出かけてきました。  
そのゆくえ、ご一緒に見届けていただければと願っています。

## 創刊のことば



Y氏の磁場に集い俳句の世界を知った三人が、小さな表現活動をはじめました。

「豆句集 みつまめ」。雑誌であり、同時に豆句集でもあるという位置づけには、雑誌の継続性と句集の完結性を併せ持った、そんな媒体としたいという思いがあります。

「みつまめ」の名はもちろん我ら三人のことであるととも、その豆を浮かべたあの透明で甘いおやつのことでもあります。

シンプルに、まじめに、大胆に。俳句という豊かな言葉の器を受け継ぎ伝える者としての自覚を、「みつまめ」という楽しい響きのなかにこめました。

「豆句集 みつまめ」。お届けいたします。どうぞご賞味のほどを。

豆句集 みつまめ

井上雪子+梅津志保+西村 遼

豆句集



Producer \* 吉野裕之  
Special Thanks \* 浦崎真子

このファイルはホームページ配布版のため、  
奥付の内容が印刷版のものとは異なります。



豆句集 みつまめ

2012年立冬号（通巻第1号）

2012年11月7日発行

発行所

みつまめ工房

<http://homepage3.nifty.com/a-un/mitsumame/>

制作：アトリエ云 印刷：啓文社

定価：300円（税別）